

今日は、授業について話をしたいと思います。1年生はわからないかも知れませんが、2年生や3年生は気づいているでしょうか。昨年に比べ授業中にペアで対話することやグループワークが多くなったことについてです。もちろん科目や担当者によってその方法や頻度に違いはあります。

私が高校生だった約40年前は、こういう授業はほとんどありませんでした。先生が説明したことを必死に覚えたり、パターン化した問題を解く力をつけたりする授業が多かったと思います。私たちの世代は、それでなんとか世の中を生きることができた時代だったと思います。社会が今のよう急激な変化を伴わず、一定の状態を保っていてくれたからです。目標とする標的が固定していたか、動くとしてもゆっくりと動いていたので、照準を合わせやすかったということです。

しかし、今は違います。多様性と変化に象徴される時代になってきました。多様性は外国の人との関わりに限りませんが、グローバル化はそれを象徴するものといっているでしょう。出雲市の今年11月における外国籍の人の人数は3669人ですが、10年前は1916人でした。この10年で約2倍に増えています。日本の人口減少が進む中、労働力として外国からの人材は貴重です。今後も増えると思います。このように、グローバル化は外国で働く日本人に関わるだけでなく、日本にいる外国の人たちと共生することも意味しています。

変化についての代表例は、AI（人工知能）の進化です。将棋や囲碁の世界では、人間が太刀打ちできなくなるレベルまで進化しています。今後、約15年で、現在の職業の47%は自動化されるという説もあります。つまり、学校を終了してなんらかの職業に就いたとしてもなくなってしまう可能性があるのです。長崎のハウステンボスには「変なホテル」というホテルがあります。ここでは、受付をロボットがしています。「未来くん」と「夢子ちゃん」という名前だそうです。「未来くん」はなぜか恐竜の格好をしています。「夢子ちゃん」は制服を着た女性の姿をしています。チェックインやチェックアウトはすべてこのロボットがするそうです。また、部屋までの荷物の運搬も他のロボットがしてくれるようです。

さて、このような多様性と変化に彩られた社会は、常に変動する社会で止まってくれません。先ほどの標的で例えれば、それは常に動く標的のです。君たちは動く標的に向けて照準を合わせ、矢を放たなくてはならないのです。限られた条件の中で、矢を放つ速さや方向を定めるには、複数の人間で十分な情報を収集し、対話を通し判断することが必要です。対話を含む授業は、大学など上級学校でも盛んに行われます。仕事する社会では、常に知恵を出し合い協議しなければなりません。対話を含む授業は、その習慣や方法・技能を身につけ、深い学びにつなげる授業です。

このような授業を効果あるものにするには、条件があります。対話のルールです。1つめは、相手を尊重することです。基本は、聴く態度と伝える態度です。難しいことはありません。聴くときは相手の目をみて聴く。そして最後までしっかり聴くことです。私が君たちに尊重されているかどうかは、この壇上から見れば一目瞭然です。自分の思いを伝えるときは、はっきりとした言葉で、相手に届く声で、わかりやすい筋道で話すことです。

2つめは、貢献することです。自分の意見をグループの中で披露することです。異なる意見は多面的な思考を促し、よりしっかりした意見を形作る意味でグループに貢献することになります。

3つめは、違いを生かすことです。異なる意見が出されたときは、どちらかの意見を選択する、互いのいいところ取りして新たな意見をつくりだす、2つの意見を包括する意見をつくりだすなどいろいろな場合があります。いずれの場合でも、もとの意見が複数の人に練り上げられることで、より発展した意見になります。外見の違いや考えの違いは、人間である以上あって当然です。それを拒否することが人間関係を崩します。違いをどう受け入れ生かすかは、君たちの豊かで充実した人生に関わってきます。

今日は、授業での対話が増えている理由と対話の前提としてのルールの話をしました。ルールとは、「相手を尊重すること」「貢献すること」「違いを生かす」ことでした。

さて明日から冬休みが始まります。今年1年を振り返り来年に向けて目標や計画を練ってください。健康や安全に気をつけて過ごし、実りある冬休みになることを祈ります。

平成29年12月22日

島根県立大社高等学校
校長 吉田彰二